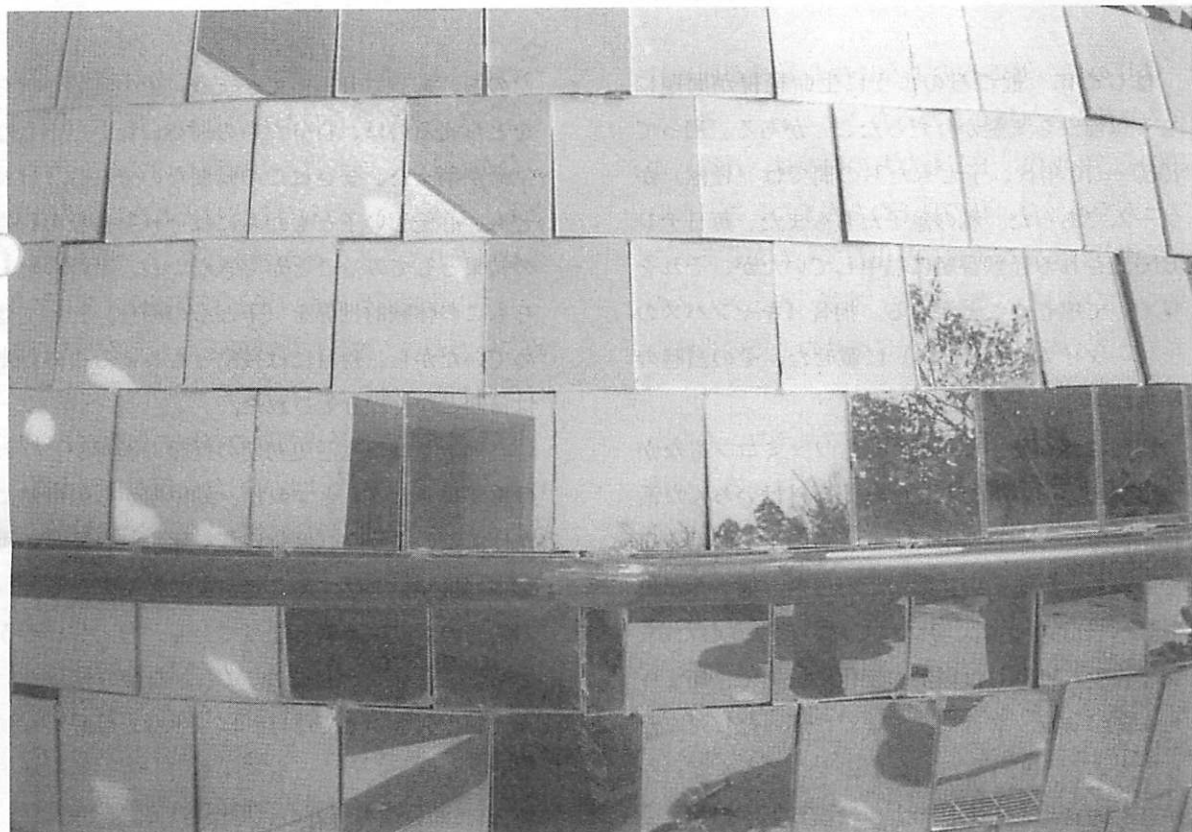




名古屋いのちの電話



真 服部 真由子

こころの色

谷川 俊太郎

私わたしがなにを思おもってきたか

それがいまの私わたしをつくっている

あなたあなたがなにを考かんがえてきたか

それがいまのあなたそのもの

世界せかいはみんなのこころで決きままる

世界せかいはみんなのこころで変かわる

あかんぼうのこころは白はく紙し

大おおきくなると色いろにそまる

私わたしのこころはどんな色いろ？

きれいな色いろにこころをそめたい

きれいな色いろならきつと幸しあわせ

すきとおっていればもつと幸しあわせ

谷川俊太郎詩集

「すこやかに おだやかに しなやかに」

佼成出版社より



期待に背く死、期待する死

—生命観のルーツ?—

名古屋大学名誉教授
名古屋いのちの電話評議員

辻 敬一郎

はじめに 近ごろのように生命軽視が問題になる以前から気懸かりだったことがある。遡って1960～70年代、子どもたちの間では〈怪獣〉がブームであった。私の息子たちもまた、毎日テレビで流される怪獣番組に熱中していたが、それを見ていて感じたことがある。拙著『キャンパスのティータイム』（2001年）に載せた、その当時の一文に手を加えて紹介しよう。

期待に背く死 まだテレビもファミコンもなかった時代、子どもたちにとって戸外はいろんな活動を保障してくれる場であり、男の子たちはそこで虫取りや魚すくいに夢中であった。捕まえた虫や魚は自分の手で大切に育てたいと思うのだが、野生の生き物たちは環境の変化に敏感で、捕まったことがショックとなってすぐに弱ったり死んだりするから、思うようにはいかない。心を痛めながらも同じことを毎日のように繰り返す。

せっかく手にした魚がバケツの中で白い腹を見せはじめると、もう必死だ。なんとかしなければと、畦道の豆の葉で陽射しを遮るとか水を入れ替えるとか、仲間と知恵を出し合っただけで手を尽くすが、いっこうに効き目がない。こうして子どもたちの間に一種の虚しさが募りはじめたとき、「塩を入れると元気になるぞ」と物知り顔で言う子がいたりすると、この妙案に活気づいて大づかみの塩を投げ入れ、バケツの中で次に起きるはずの出来事を待つ。緊張に充ちた時間の流れ。しかし、当の魚たちは、生への最後の執着をみせ

たのち、あっさり逝ってしまう。生の実感が彼らをとらえるのは、自分たちの期待に背いた小さな生命が消えた、まさにこの瞬間なのである。けれども、心優しい子どもたちにはそれを自分の行為の結果としてみることはできないし、当時の親子もこの体験的世界を〈子どもの領分〉として認めていたから、傍目には残酷ともみえるこの行為は何回となく繰り返された。

心理学では、生活史初期の経験の影響がとりわけ重要視される。とすれば、幼児期から児童期にかけてこのような〈期待に背く死〉との遭遇を通して〈生〉を実感することが後の生命観や他者への共感の形成に基礎となっていると考えられそうである。そのことはまた、〈小さな命の死〉という代価と引き換えでなければ〈生命の尊厳〉を洞察できないということも意味している。私自身の場合も、幼い頃の行為の〈罪深さ〉に気づくのは、ずっと後になってのことであった。

期待される死 しかし、日本の経済成長とともに、皮肉にもこのような体験が得がたいものになった。もっとも、子どもたちの心の発達に大きな変化が起こるとは考えられないから、彼らは相変わらず動物好きである。では、虫や魚の棲む自然が遠くなった現在、生き物への関心はどのように補償されているのだろうか。そこで浮かび上がってくるのが〈怪獣〉の誕生と進化である。日本では、映画に出た「ゴジラ」（1954年）が最初ではないかと思う。当時の子どもたちは、一方でまだ

虫取りや魚すくいに興じながら、この超自然的で脱日常的な体験の世界を楽しむことができた。しかし、1960年代後半になって怪獣の活躍の場が映画からテレビに移ると事情が違ってくる。映画研究家の安井ひさし氏も書いておられるように、我が国における〈怪獣ものブーム〉は何度か訪れたが、そのたびに特徴が変わっている。

初期の怪獣は、ゴジラやモスラのように、氷河期に閉じこめられていた生物が地殻変動なかにかで突然に蘇ったという筋のもので、動物進化上の実在動物を思わせる存在であった。ところが、1960年代後半、ウルトラマンやウルトラQが登場すると、怪獣が主役で怪獣どうしの対決から、しだいに怪獣対人間、さらには怪獣対超人の図式へと変化する。

怪獣ものはその後いったん下火になって、70年代にふたたびブームになる。「帰ってきたウルトラマン」や「スペクトルマン」などがそれである。なかでも「スペクトルマン」では、怪獣は人間と完全な敵対関係にあって〈斬られ役〉になりきる。また、この時期には、交通事故死した少年の怨念の化身とされるクルマニクラスのように、〈変異〉を生み出す時代状況を映す〈社会派〉の怪獣が主流になった。

こうして繁栄した怪獣であるが、重要なことは、性格がどう変わろうとも、子どもたちにとってそれらは一貫して〈動物〉であり、私たちの周囲から動物が姿を消していく中で、それら新種が子どもたちの心の空洞を埋める貴重な存在でありつづけたという事実である。

ただ、この新種はかつて子どもたちを魅了した小動物とちがって、あまりに強大であった。子どもたちどころか、おとなの人間でも相手にならない。となれば〈超人〉に登場ねがうほかない。この助っ人の性格もまた時代とともに変化してい

く。月光仮面、ウルトラマンと続く超人は、一人の人間が変身したり元の姿に戻ったりするという点で、現実世界との関係を繋ぎとめていたが、マジンガーZのように巨大マシンを制御する超人、さらには人工知能を搭載したサイボーグというように〈進化〉するうち、人間の能力の及ばない世界で超人と対決する怪獣は、最後には超人によって滅ぼされ、その〈死すべき存在〉が終わりを告げるようになる。そして、子どもはそれを傍観するしかない。そこには〈喜ばしい死〉があっても、心痛む死はない。期待された死には、期待に背く死に伴う、あの感動は望めない。このような死の傍観が〈生〉について教えるものは、虫や魚の死が黙示するものとけっして同じではなかろう。

怪獣その後 これまで怪獣をいじめ過ぎたかもしれない。超現実世界への憧れはいつの時代の子どもたちにもあって、彼らの想像を刺激してきた。しかし、現実世界で動物たちと共感的に関わることでできた時代の子どもたちと、そのような実体験の機会を奪われた子どもたちとでは、超現実的な代理体験の効果、つまり生の洞察や生命観に与える影響に基本的な違いを生じたとしても不思議ではない。

この文を書いたから30年以上が経つ。その間に、ヴァーチャルな生物や生物ロボットが出現し、他方で人工臓器や万能細胞などの技術が進展し、それを反映して新たな超現実世界が子どもたちを魅了している。隣に住む4歳の孫は、現在「炎神戦隊ゴーオンジャー」に熱中しているが、合体することによってロボットになったり乗り物になったりと複雑な仕組みであり、生物と非生物の区別や敵味方の関係も怪獣時代のように単純ではなさそうである。幼少期の〈死〉との遭遇が生命観の形成にどのような刻印を残すか、それがますます見えにくくなってきた。

2007年度 事業報告

2007年度も愛知いのちの電話協会の電話相談活動に、多くの方々から温かいご支援とご協力を賜りました。心のより感謝申し上げます。またこの一年間、相談活動が一日の休みもなく続けられましたのも、相談員の方々のたゆまぬご奉仕のお蔭と改めて敬意と謝意を申し上げます。

1985年の開局以来、355,044件の電話相談を受信いたしました。2001年からは厚生労働省の後援のもとに自殺防止のフリーダイヤル週間が始まり、7日目にはいった2007年9月からは毎月10日に施行されることとなりました。さらには「自殺総合対策大綱」が出来、全国自治体で取り組むこととなり、愛知県では「あいちこころほっとライン365」が4月に開局され、9月11日からは一週間フリーダイヤルが実施されました。その背景には、年間3万人を越す自殺者の防止対策ということがあり、全国的な取り組みとして、いのちの電話の果たす役割が非常に高まっていることの現れかと思われれます。

こうした利用者からのニーズに応えるために、12月には電話回線を一本増やしました。それには、電話相談員の増員ということが不可欠であります。そのために「電話相談ボランティア養成講座」の見直しを行い、2005年の15期養成講座からは、一年研修で講座を修了し、その後に更に6ヶ月の実地電話相談研修という新しい取り組みではじめました。2007年9月には16期生の相談員として42人が認定されました。その養成に携わってくださった先生方とスタッフのご努力で多くの相談員の養成が可能となり、17期生も71人の応募者で、5月12日から開講しました。2008年2月には48人が修了し、その後のインターン研修にはいりました。

養成委員会

委員長 水谷 たかし

第17期生は例年のごとく中日新聞のおかげで公開入門講座は71人で始まった。その後深夜帯当番を含む参加意志を確認して、7月からの前期講座へは62人が進んだ。

10月の1泊研修も有意義に進み、2月21日には42人が認定され、その後の6ヶ月相談員インターン研修に入っている。

石田まり子メソッドともいふべきプログラムを採用して3回目をむかえ、講座後のインターン研修も実習として極めて有効であることが確かめられた。またこの養成が毎回15人ほどの先輩スタッフによって運営されていることも名古屋方式として特筆すべきである。

試行錯誤を経ておよその養成教程ができあがったと言える。2ヶ月の入門講座を終えて実践的研究に入るが、こちら事も事例をふまえたモデルを取り入れたカリキュラムもおよそ確立された。以前は想起録を教材としてきたが、文面から心の動きを読みとるのは心理学的洞察と異なる特殊な文章解読感性が求められる困難があった。これに代わった実際のインターン研修の方が有効であることが確かめられた。

時代世相を反映して電話相談も変わる。電話応対技術は実践から学ばなければならない。その意味では経験豊富な相談員先輩が大勢養成に当たるといふ望ましい自己再生型組織が出来上がってきたと思う。

相談委員会

委員長 兼田 智彦

相談委員会の仕事は、次の4つが運営規則で決められています。

- ①相談員が毎月1回行っている継続研修、電話相談の質を保つために年1回のスーパービジョンの実施、相談員を毎年続けるための登録更新などの研修に関すること。
- ②電話相談を受けて心理的なサポートが必要になる相談員のケアとボランティアを続けていただくためのサポート。
- ③電話相談の担当を24時間365日休みなく続けるためのシフトを組む担当編成。
- ④電話相談が快適に行えるための施設の清掃と環境改善。

メンバーはそれぞれの仕事を行っているワーカーズグループ（環境改善グループ、担当編成グループ、カルテの会、緊急連絡員グループ、統計係）とベルの会と事務局の代表者が集まっています。

昨年は移転以来初めて電話相談室の全面改装を行って、相談電話の台数も増やすことができ、結果的に受信件数が増加しました。

毎年、新しい相談員が誕生し、いのちの電話に新しい力が加わっていただけることは頼もしい限りです。今後も、自殺予防の一翼を担う市民活動として、質の高い電話相談ができるよう縁の下で働きます。

広報委員会

委員長 安藤 和彦

広報委員会の主な仕事は協会の運営規則に従って、①機関紙「名古屋いのちの電話」の発行（年3回）②資金づくりと協会の活動PRのためのチャリティ・イベント（年2回）③賛助会員と相談員宛に手作りの誕生日カードの発送、などを主な活動の柱として日常活動の情報の発信に務めています。

機関紙は68号から70号までの3号を発行しました。紙面では日頃名古屋いのちの電話の活動にご協力いただいている評議員やスーパーバイザーなどの方々に福祉や医療、こころの健康などご専門の分野から示唆に富む発言、提言などをお寄せいただきました。なお、機関紙の表紙写真は70号から新進のフォトグラファー服部真由子さんの新しい感覚に委ねることと致しました。

チャリティーコンサートは2回行いました。まず、4月29日の詩人谷川俊太郎さんと俳優・演出家の舟木淳さんによるトークショウ「日本語のかたち」は、私たちの総力をあげて取り組んだ久々の大型企画でしたが、お陰さまでチケットは完売で名古屋芸術創造センターを満杯にすることができました。

12月恒例のクリスマスコンサートは、蒲郡を中心に活動するボーカル・グループ「Wish」の登場。陶山理佳さんの透明感のあるクリスマスソングを中心に軽妙なトークを交え、幸せなひとときをプレゼントして下さいました。ご支援いただきました皆さまのお力添えに厚くお礼申し上げます。

また、賛助会員と相談員にお送りしている誕生日カードは、これは有志による手作りのカードですが、何よりの「こころのこもったバースデー・プレゼント」として大変好評を頂いています。

財務委員会

委員長 田中正樹

名古屋いのちの電話の主な収入は、個人および法人の賛助会費、寄付金、助成金、講座受講料などからなっています。07年度の収入合計は1,886万円（繰越金を除く）で、大口の個人寄付が寄せられたこともあり寄付金が大幅に増えて、前年比317万円の増収となりました。（右頁収支計算書参照）

講座受講料は400万円を計上していますが、この数字は新規相談員の応募の増減によって左右されるものですし、その殆どが研修費に支出されるという性質から安定的な収入と見なすことはできません。経常的に私たちの活動を支えている収入は、個人および法人による賛助会費および寄付金に依拠していることは申すまでもありません。そのうち最も基礎的な賛助会費の合計は457万円で、一定の水準を維持できてはいるものの過去3年漸減の傾向が見られるのが危惧されるところです。

支出におきましては、日常の光熱費、消耗品費に至るまでできるだけ無駄を省き、経費の節減に努めました。この結果当期支出の合計は1,590万円で、増収分にほぼ近い296万円を収益として計上することができました。25周年記念事業の準備金は、前年より100万円増額して200万円としました。また、相談員が増えたことに伴い電話室のリニューアルと拡張を行い、電話回線も1本増設して相談電話の増加に対応できるようにしました。

日頃名古屋いのちの電話の財政を支えて下さっている賛助会員、法人など関係者の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます

総務委員会

委員長 植田 望

いのちの電話は、養成・相談・財務・広報・総務の5つの委員会及びベルの会（相談員全員参加の会）、友の会（OB会）によって構成されています。これら実動部隊をとりまとめる実務を担当しているのが事務局です。

総務委員会の役割は「組織全体にかかわる内容を把握し、事務局を支えながら、名古屋いのちの電話が円滑に運営されるための裏方」と認識しています。

最近の新聞に、07年も自殺者が3万人を超えたとの記事が掲載されていました。この2、3年国や愛知県、名古屋市が自殺問題を行政の施策として、大きく取り上げるようになりました。電話相談のノウハウを持ついのちの電話が行政から頼りにされる時代になりました。

必然的に事務局は今までのように内部の運営や連絡調整のみを行ってればよいという時代に比べて、はるかに業務の拡大と、その重要性が問われる時代になって来ました。

事務局は組織の運営、他機関との連携、応援を含めて年々その忙しさは増大しています。

総務委員会は、毎月定期的に開催され、日常業務に関わる諸問題について事務局長を支えて、意見交換や調整を行い、事務局の業務がとどこおりなく遂行出来るようお手伝いをしています。

また、組織運営に関わる問題については、運営協議会や評議員会への議題の提案や調整を行っています。

2007 年度収支計算書

単位：円

科 目	決 算 額
(貸方) 収入の部	
助成金	850,000
賛助会費 (A)	950,000
賛助会費 (B)	450,000
賛助会費 (C)	381,000
会費 (法人)	2,790,000
寄付金 (個人)	4,782,893
寄付金 (法人)	2,135,327
年末募金	762,242
登録更新料	222,000
講座受講料	4,004,000
受取利息	1,212,803
雑収入	328,035
当期収入合計 (A)	18,868,300
前期繰越	9,881,387
収入合計 (B)	28,749,687
(借方) 支出の部	
事業費	
研修費	3,570,378
広報費	456,539
連盟分担金	313,000
(事業費合計)	4,339,917
管理費	
人件費	4,740,900
需要費	
法定福利費	58,650
旅費・交通費	1,450
家賃	2,551,500
共益費	150,150
光熱水道費	625,457
営繕費	322,770
賃借料	175,392
通信費	414,733
文具印刷費	65,195
消耗品費	237,186
雑費	216,861
東海地震対策費	0
25周年記念事業準備金	2,000,000
(管理費合計)	11,560,244
当期支出合計 (C)	15,900,161
当期収支差額 (A) - (C)	2,968,139
次期繰越 (B) - (C)	12,849,526

2008 年度予算

単位：円

科 目	予 算 額
(貸方) 収入の部	
助成金	850,000
賛助会費 (A)	1,000,000
賛助会費 (B)	600,000
賛助会費 (C)	400,000
会費 (法人)	2,500,000
寄付金 (個人)	2,000,000
寄付金 (法人)	1,500,000
年末募金	1,000,000
講座受講料	3,500,000
受取利息	1,000,000
雑収入	50,000
当期収入合計 (A)	14,400,000
前期繰越	12,849,526
収入合計 (B)	27,249,526
(借方) 支出の部	
事業費	
研修費	4,500,000
広報費	600,000
連盟分担金	377,000
諸会費	10,000
調査研究費	30,000
会議費	20,000
(事業費合計)	5,537,000
管理費	
人件費	5,000,000
需要費	
法定福利費	200,000
旅費・交通費	50,000
家賃	2,898,000
光熱水道費	700,000
営繕費	1,000,000
賃借料	279,720
通信費	500,000
文具印刷費	200,000
消耗品費	500,000
雑費	400,000
東海地震対策費	1,000,000
25周年記念事業準備金	2,000,000
(管理費合計)	14,727,720
当期支出合計 (C)	20,264,720
当期収支差額 (A) - (C)	△ 5,864,720
次期繰越 (B) - (C)	6,984,806

グラフで見る名古屋いのちの電話

○ 23年間の受信件数の推移（1985年7月～2007年12月）

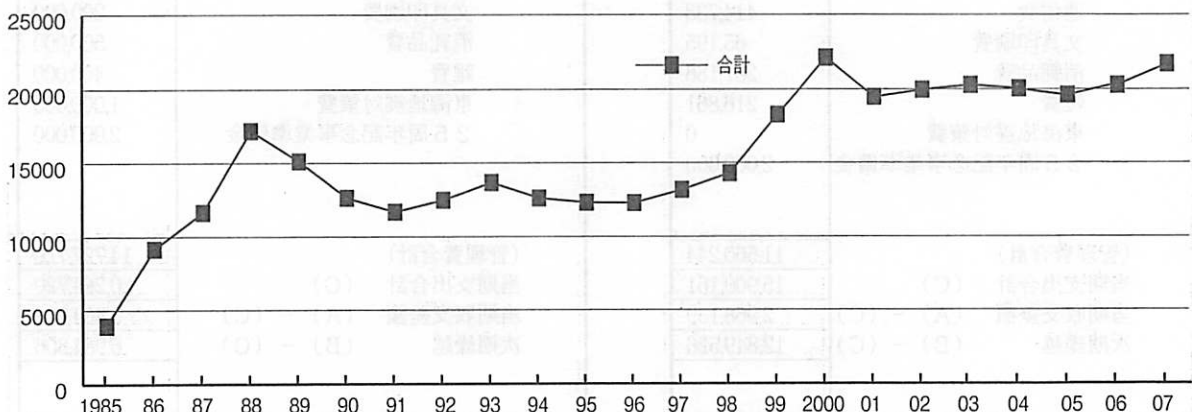
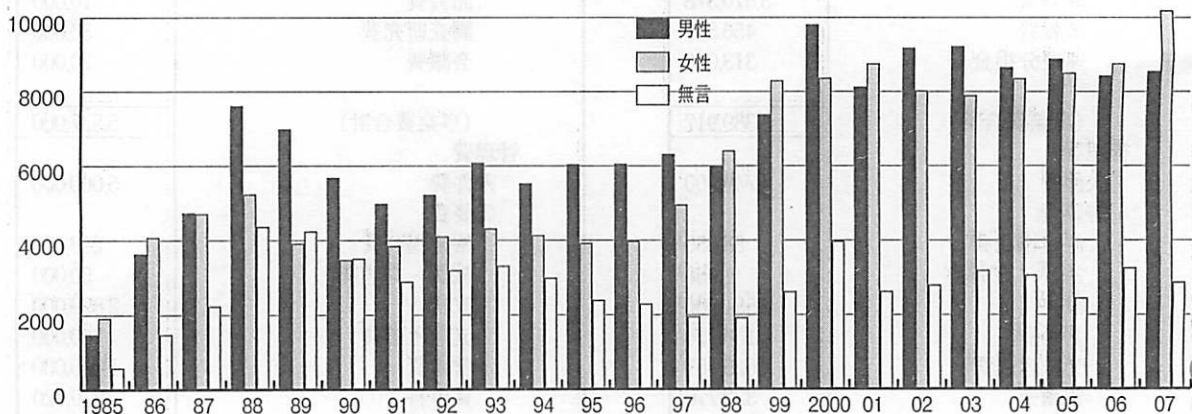
1985年の開局からの受信件数は、355,044件でした（うち無言電話の63,554件を含む）。2007年度の1日あたりの平均受信件数は62件になります。

2001年度から始まりました厚生労働省の後援による自殺予防のフリーダイヤルは7年目を迎えました。10月から毎月10日に全国一斉に実施し、2008年3月10日まで計7回行いました。463件のうち自殺志向の電話は109件で、全体の23.5%でした。

○ 23年間の受信件数（1985年～2007年）

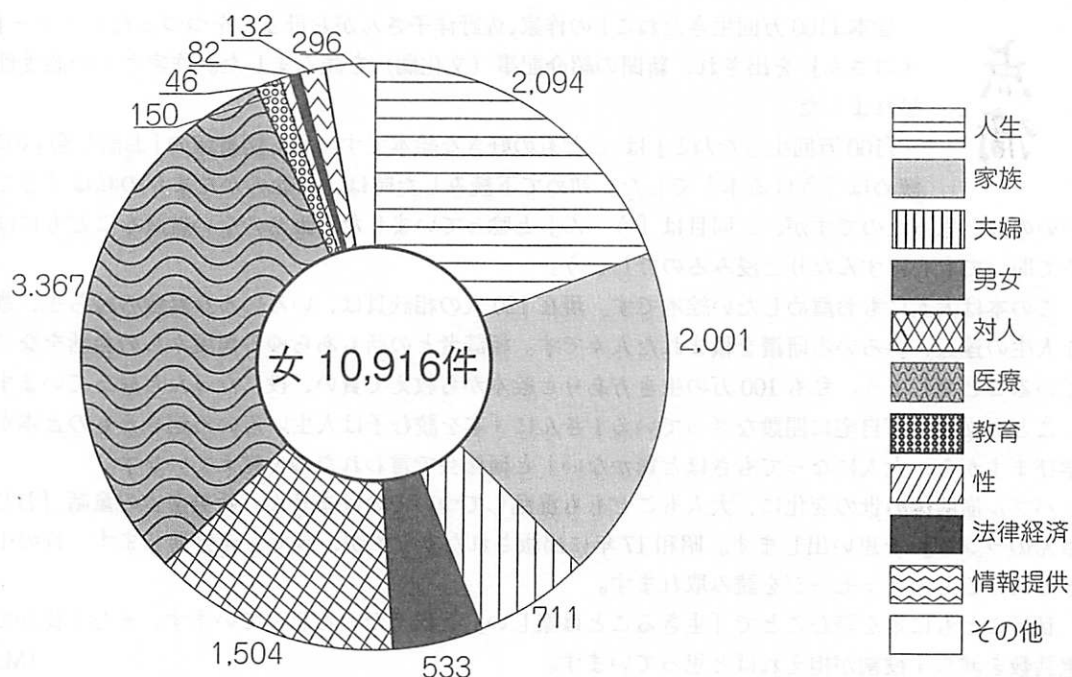
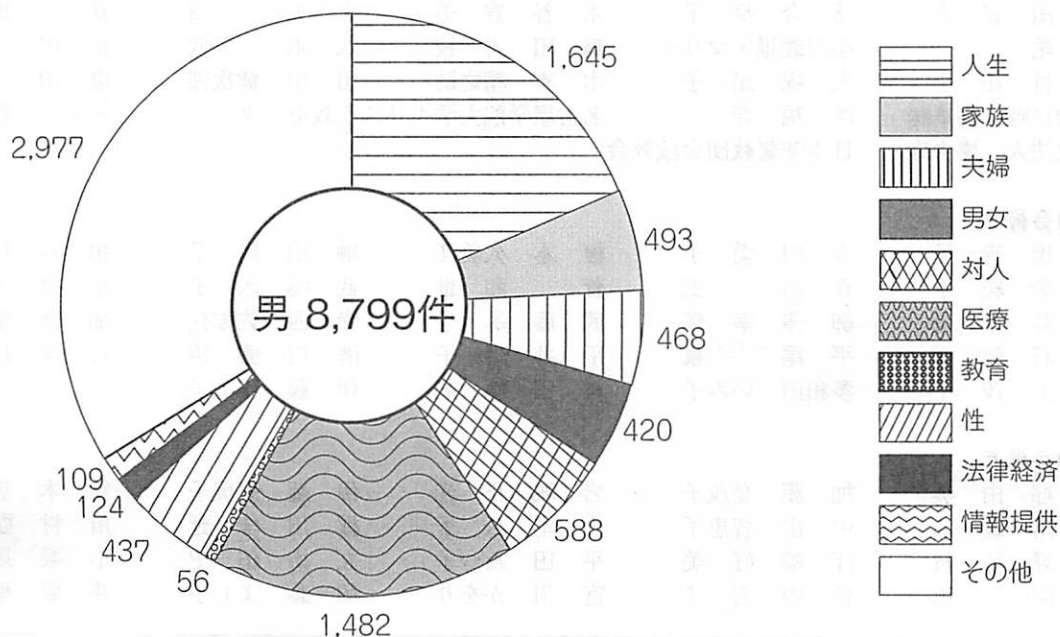
	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
男性	1465	3626	4721	7603	6979	5670	4970	5210	6069	5514	6025	6038	6301
女性	1905	4071	4700	5224	3905	3469	3836	4094	4306	4125	3911	3966	4940
無言	573	1466	2227	4356	4232	3504	2882	3189	3306	2981	2385	2285	1942
合計	3943	9163	11648	17183	15116	12643	11688	12493	13681	12620	12321	12289	13183

	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	合計
男性	6301	5989	7364	9800	8114	9173	9215	8647	8992	8519	8799	154,803
女性	4940	6392	8289	8357	8749	8010	7885	8348	8546	8743	10916	136,687
無言	1942	1913	2610	3962	2617	2783	3184	3051	2223	3090	2792	63,554
合計	13183	14294	18263	22119	19480	19966	20284	20046	19761	20352	22507	355,044



2007年 相談内容別受信件数（1月～12月）（除く無言電話）

		人生	家族	夫婦	男女	対人	医療	教育	性	法律経済	情報提供	その他	総計
総計	男	1,645	493	468	420	588	1,482	56	437	124	109	2,977	8,799
	女	2,094	2,001	711	533	1,504	3,367	150	46	82	132	296	10,916
	計	3,739	2,494	1,179	953	20,92	4,849	206	483	206	241	3,723	19,715



ご援助ありがとうございます

2008年2月より5月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に
ご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただいております。

社会福祉法人愛知のちの電話協会
理事長 野村 純一
財務委員会

賛助会員 A

渡 辺 邦 俊	橋 本 良 男	太 田 喜久雄	梨 本 將 代	森 宣 子
田 畑 洋 子	岡 田 庸 男	大 島 恭 子	山 本 幸 江	望 月 千 年 成
石 田 義 人	落 合 亨 子	水 谷 宣 美	大 矢 道	冨 安 玲 子
樫 尾 一	小川義雄・マリ子	島 田 吉 枝	八 木 武	細 川 拓
大 村 祐 子	大 塚 鎔 子	木 本 精之助	田 中 健次郎	塩 田 保
愛知日野自動車(株)	西 福 寺	名古屋学院大学キリスト教センター		永澤寺 岡島博司
宗教法人 建中寺	日本基督教団金城教会			

賛助会員 B

高 橋 青 子	吉 田 愛 子	榎 本 久美江	榊 田 陽 子	粕 谷 靖 彦
新 美 純 子	青 山 玄	菅 和 世	武 嶋 米 子	小 室 美奈子
村 井 みほ	柳 澤 幸 輝	武 藤 尋 子	寺 西 佐稚代	加 藤 幸 雄
白 石 信 喜	平 尾 泉	平 井 瑞 子	溝 口 興 治	杉 藤 はる子
村 上 茂 子	多和田 いみ子	神 田 輝 夫	伊 藤 雅 子	

賛助会員 C

服 部 由 美	加 藤 登茂子	岩 城 正 光	伊 藤 恵美子	鈴 木 恵美子
相 川 義 治	中 出 智恵子	山 本 公 子	柳 川 佳 延	川 村 弘 子
矢 野 静 枝	江 崎 好 美	平 田 たづ子	丸 山 佑 史	小 栗 夏 江
尾 関 稔	竹 内 宏 子	宮 川 かをり	須 藤 よし子	荻 原 里 美

点 滴

絵本『100万回生きたねこ』の作家、佐野洋子さんがお母さんをつづったエッセー『シズコさん』を出され、新聞の紹介記事(文化欄)を読みました。作家さんの感受性に触れました。

『100万回生きたねこ』は、こどもの好きな絵本です。私も図書館の「お話し会」の時、読めば「うける本」でした。初めて下読みした時は、雑念のかたまりの私は「どこがいいの」と思ったのですが、二回目は「うーん」と唸っていました。雑念のない純真なこどもには初めて聞いても心にすんなりと浸みるのでしょうか。

この本は大人にもお薦めしたい絵本です。現在120人の相談員は、いろいろな経験の持ち主、豊かな人生の達人、いろいろ研鑽を積まれた人々です。相談者との話もあらゆる角度からの会話をなされていることでしょう。私も100万の生き方ありと絵本から教えて貰い、役にたったと思っています。

こども文庫をご自宅に開設なさっているIさんに「本を読む子は人生いろいろ起きるものと本から学びますから、大人になってもさほど驚かない」と研修会で言われたのを覚えています。

バブル崩壊後の世の変化に、大人もこどもも混乱してついていけません。新美南吉の童話『おじいさんのランプ』を思い出します。昭和17年に出版された本ですが、今でも充分通じます。世の中生きていけるとのメッセージを読み取れます。

私はこどもに本を読むことで「生きることは楽しい」と伝えたいと思っています。そして僅かでも電話数を減らす役割が担えればと思っています。

(M.S)

神谷 將弘	鏡味 泰雄	岩田 康子	鬼頭 洋子	岡嶋 恒夫
中谷 塩子	山下 タカ子	早川 みどり	近藤 直枝	水野 恵美子
和久 英子	浅野 喜代子	平野 昌子	山崎 京子	田中 良子

日本福音ルーテル復活教会婦人会

寄付金

杉村 朝代	舟越 洋子	河村 清子	松岡 幸彦	森島 由紀子
西山 えつこ	古沢 清美	福原 満江	小川 邦泰	小幡 美登理
中川 鋪子	岡崎 和子	山本 幸江	木村 みや子	山下 智恵子
中川 晋介	浅野 恵美子	柳川 佳延	加藤 倫子	加藤 厚子
野村 純一	上田 きよ	鈴木 智	水野 壽子	小栗 和子
福岡 正	矢満田 篤二	牧 智恵子	辻 敬一郎	井澤 陽子
大塚 鎭子	石田 夏江	長倉 れい子	見木 靖美	加藤 省吾
水谷 巍	石田 朗子	浅野 美津子	松岡 朱美	永井 洋子
高橋 孝子	川野 一美	島田 吉枝	山崎 由美子	森 宣子
石川 昌夫	宮田 喜代子	秋田 あや子	武田 京子	植木 ヒロ
平田 眞貴子				

金城学院大学 金城学院高等学校 聖霊病院 日本基督教団名古屋中央教会 守山教会東田
 興禅寺 日本キリスト教団愛知教会女性の会 (株)CTK (株)中外 (株)オチアイネクス
 川北電気工業(株) カトリック小牧教会 幼き聖マリア修道院 カトリック高蔵寺教会
 カトリック平針教会 光ヶ丘女子高等学校 (株)陣内工業所 聖霊奉侍布教修道女会
 日本基督教団名古屋北教会社会奉仕委員会 カトリック布池教会 ホーユー(株)
 栄冠幼稚園 黒金化成(株)

歳末募金・クリスマス募金

日本基督教団南山教会 名古屋聖ステパノ教会 カトリック日比野教会
 日本キリスト教団名古屋教会

法人賛助

敷島製パン(株)	杉山工業(株)	(株)杉浦製作所	(社)中部善意銀行	名東齒車(株)
(株)三琇プレジジョン	アサダ(株)	(株)ミヤタコーポレーション	(株)榎屋	
トヨタ紡織(株)	新明工業(株)	立松モールド工業(株)	中央精機(株)	
(株)サンゲツ	トヨタL&F中部(株)	(株)青山製作所		

賛助会員を募集しています

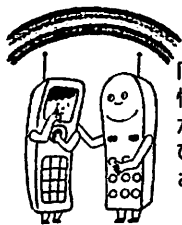
ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただきありがとうございます。心からお礼申し上げます。会員の皆様の倍旧のご支援と会員増加の運動にもお力添えを賜りますようお願いいたします。社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

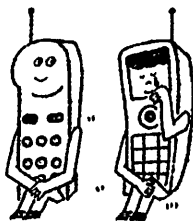
- (1) 法人会員 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員 (年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 口座番号 三菱東京UFJ銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせ…社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話事務局 ☎ 971-5181



「自殺予防 いのちの電話」は、
悩み苦しんでいる人の“こころ”
が和らぎ、希望と勇気をもって再
び生きていかれることを願い開設
されました。



あなたがつらいとき、近くにいます。

毎月10日は、フリーダイヤル

0120-738-556

毎月10日 8:00～翌8:00
(24時間・無料です)

2008年4月10日～2009年3月10日

<http://www.find-j.jp/>

日本のいのちの電話連盟

主催：社会福祉法人いのちの電話 後援：厚生労働省

～期間以外は各地域ごとに相談を受けています～

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

自殺予防 いのちの電話

【友の会だより】

「友の会」は名古屋いのちの電話の活動を機会ある毎に応援することを目的に、この8年間仲間づくりに励んできています。去る4月29日に2008年度の総会を開催しました。新しい仲間も加えて和やかな懇親のうちに活動の状況を確認し合い、今年度も会員の増強をはかり奉仕の拡大につとめることを申し合わせました。

会員のみなさんの「いのちの電話」への思い入れと奉仕の熱情を今年度も活動に活かしていきたいと願っています。そして仲間を募っています。お問い合わせ、提言は随時下記役員までお寄せ下さい。又年間1000円の会費は、ご奉仕に参加の際に会計役員まで、又は事務局にて受付しておりますのでよろしくお願いいたします。

今年度も秋の旅行を計画しています。ご期待ください。

会長／木本精之助 副会長／金森タイ 書記／太田智恵子 会計／中川幸子
監事／常富佳子 連絡員／菅原美智子、吉田愛子、斉藤延枝

【編集後記】

辻敬一郎先生は文章を“幼少期（死）との遭遇が生命観の形成にどのような刻印を残すか、それがますます見えにくくなってきた”と結んでおられます。だからこそ、いのちの尊さ、大切さを幼少期からしっかり教えていかなければ……。それが大人と社会の責任ではないでしょうか。点滴では「生きることは楽しい」と伝えたいとあります。悲しみのあとには喜びが、苦しみのあとには楽しみが必ずあるはず。何があろうと乗り越えて「生きることは楽しい」と言える（思える）人生を歩んでほしいと願い電話の向こうの見知らぬ人と心をつないでいます。この機関紙を読んでもくださるお一人お一人にも何かを伝えることができればと願っています。

この号は名古屋いのちの電話の2007年度の事業報告をさせていただきました。ご意見、ご感想をお聞かせください。

70号から表紙の写真が服部真由子さんにかわりました。どんな時の心を読み取ってくださるのか、若い女性の感覚を楽しみにしていただきたいと思います。

この「名古屋いのちの電話」の機関紙は、共同募金配分金によって作成されたものです。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
名古屋いのちの電話

2008年夏

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号
事務局 ☎ 052-971-5181
相談電話 ☎ 052-971-4343
携帯相談電話 NTTドコモ東海「#9556」

2008年7月1日発行
発行人 野村 純一
編集人 広報委員会